東北公益文科大学
Tohoku University of
Community Service and Science

基礎演習ａ シラバス

２０１６

基礎演習ａシラバス

基礎演習ａ 選択に伴う留意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

【地域経営系】
≪経営コース≫
平尾　清 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
三木　潤一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３
≪政策コース≫
阿部 公一 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４
内藤 悟 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５
斉藤 徹史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６
≪地域福祉コース≫
佐野 治 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７
澤邉みさ子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８
武田真理子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９
竹原 幸太 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
小関 久恵 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

【交流文化系】
≪国際教養コース≫
森 彰夫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
呉 衛峰 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
松田 憲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
菅井マリー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
狩野 晃一 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
スルトノフ・ミルゾサイド ・・・・・・・・・・・・・・・・１７
≪観光・まちづくりコース≫
伊藤眞知子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
温井 亨 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
呉 尚浩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
渡辺 暁雄 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
松山 薫 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

【特別プログラム・リベラルアーツ】
遠山 茂樹 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
古山 隆 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
神田 直弥 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
広瀬 雄二 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
西村まどか （ギャップイヤー入試による入学者のみ） ・・・２７
山本 裕樹 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
白旗 希実子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

基礎演習a 選択に伴う留意事項

■基礎演習a 講義概要等について

基礎演習aは、春学期に開講する必修科目です。各担当教員が、自己の専門分野の学識蓄積に基づく身近なテーマ設定を行い、学生の自主的な研究、調査活動を指導し、演習やフィールドワーク方式に拠りながら、「読み、書き、発表」といった基礎能力を養います。

授業では与えられたテーマのもとで学生自身が課題設定や計画策定を行い、主体的に学修を進めます。授業の終わりには他の基礎演習a のクラスと合同での成果発表会を開催し、課題の達成状況やプレゼンテーションの出来栄えを競い合います。

なお、授業は少人数（10人以下）でおこなわれます。担当教員が2年次終了までのアドバイザーとなるので、気軽に教員の個人研究室を訪れて、個人的に指導を受けたり、相談したりすることができます。

■選択について

・ガイダンス中に希望票を提出してもらいますので、それまでに本シラバスに必ず目を通しておいて下さい。なお、ガイダンス時はこの冊子を持参して下さい。
・基礎演習 a 担当教員希望票に、第８希望まで記入していただきます。
・自分の系以外の教員を希望することもできます。ただし、定員を超過した場合は、教員の所属する系と同じ系の学生が優先されます。特別プログラム･リベラルアーツの教員で、定員を超過した場合は、第 2 希望以降の状況から、なるべく上位の希望教員が選択されるように調整します。これによっても定員を超える場合は、抽選となります。

■ギャップイヤープログラム（長期学外学修プログラム）への対応について

・ギャップイヤー入試による入学者は、春学期後半（S2クォーター）からのギャップイヤープログラムに対応した授業を行います。春学期前半（S1クォーター）の開講で、担当は、西村まどか准教授です（選択はできません）。

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○	○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域			○	○

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	平尾　清	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	大学で勉強する方法を、基礎から丁寧に学んでいきます。 学生生活の 4 年間を充実したものとするためには、勉強する方法をきちんとマスターする必要があります。 この授業では、効果的に勉強していく方法論について学んでいきます。そして“勉強する能力”を最大限に生かすために、大学時代の目標設定を作り上げるワークショップを実践し、受講生一人ひとりに合った“学ぶ目的”を明確化していきます。				
到達目標	①　大学時代に多くを学びスキルを育成するための、効果的な学習方法の獲得。 ②　大学時代を有意義なものとするための、個人毎の目標設定スキルの獲得。				
スキルの育成方法	学んだ知識を、ワークショップなどの実践的なコミュニケーションを通じて定着化を図ります。 ソーシャルメディアなども活用し、参加者同士が学びあう場作りも実践していきます。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	全体オリエンテーション：15 回の授業の流れとテーマについて	勉強する目標や課題について：30 分
2	勉強には、どのような意味があるか。	勉強をする意義について：30 分
3	効率的な勉強のために必要な要素とは	自分の勉強スタイル分析：30 分
4	図書館ガイダンス/図書館ツアー	公益大の学習リソースについて調査：30 分
5	基礎力養成：読み方について（文献、本、web 等）	読書経験の整理：30 分
6	基礎力養成：書き方について（メール、レポート、ブログ、SNS）	ライティング事例の整理：30 分
7	基礎力養成：聞き方について（ノートのとり方、質問のし方）	自分の聞き方の特徴分析：20 分
8	基礎力養成：話し方について（プレゼンテーション方法）	自分の話し方の特徴分析：20 分
9	基礎力養成：調査について（アンケートの作り方、まとめ方）	アンケートの作り方（復習）：30 分
10	基礎力養成：グループ・ワークについて（進め方、参加のし方）	グループワーク参加経験の整理：30 分
11	基礎力養成：課題発見・問題解決について（発想、計画立案方法）	自分が感じている課題・問題の整理：30 分
12	基礎力養成：目標設定について（目標とは？、目標達成の方法）	これまでの目標履歴整理：30 分
13	応用力養成：自分の興味分野について（経験分析）	自分自身の興味分野について振返り：30 分
14	合同発表会：プレゼンテーション実施	プレゼンテーション準備：６０分
15	合同発表会：振り返り	合同発表会のセルフアセスメント：30 分
16（試験）		

成績評価基準	授業中の発言数、中間＆最終レポートの評価を総合的に判断して最終評価を実施。 授業内での発言回数と内容。授業で指示した提出物への対応と個別提出物の内容の妥当性チェック。		
前提科目	特にありません。	後継科目	特にありません。
教科書	大学で勉強する方法、A・W・コーンハウザー著、ISBN-10: 4472097311、玉川大学出版部		
参考書	Web や映像資料、参考記事、参考図書を授業を通じて、適宜提供予定。		
注意事項	授業は、ディスカッション形式で進行します。課外授業等も実施します。SNS 等のメディアも積極的に活用していきます。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○	○	○		○			○					○	○		○		○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	三木　潤一	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	本演習は、専門科目を学ぶうえでの基礎として、日本が直面している様々な問題(少子高齢化、途上国の急速な躍進、経済のグローバル化、環境問題など)を把握し、各受講生が関心のあることから「問題」を設定し、「証拠」に基づき考えて「答え」を導き、プレゼンテーションを行い、最終的にレポートとしてまとめられるように、基礎力の養成を図ることを目的とする。				
到達目標	他者を説得し、自らも真に納得するために、文献や統計資料の分析による「証拠」の獲得ができる。				
スキルの育成方法	1)文章の要約練習、2)図書館などを利用しての文献収集・分析、3)レジュメ・スライドの作成、4)発表と質疑応答といったプロセスを通して、自分の中で、また仲間と議論する中で考え、レポートを仕上げていく。統計資料については、パソコン実習を通して分析の方法を学ぶ。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	全体オリエンテーション：15 回の授業の流れとテーマについて	大学で学ぶことについて調べる（30 分）
2	図書館・メディアセンター オリエンテーション	文献検索課題に取り組む（30 分）
3	配付プリントに基づく文章の要約練習（その 1）	要約課題に取り組む（1 時間）
4	配付プリントに基づく文章の要約練習（その 2）	要約課題に取り組む（1 時間）
5	基本文献の輪読	基本文献の読み込み（1 時間）
6	基本文献の発表準備	発表資料の作成（3 時間）
7	基本文献の発表会	発表資料の作成（3 時間）
8	統計資料の取り扱い（パソコン実習）（その 1）	計算・作表・作図等の課題に取り組む（1 時間）
9	統計資料の取り扱い（パソコン実習）（その 2）	計算・作表・作図等の課題に取り組む（1 時間）
10	統計資料の取り扱い（パソコン実習）（その 3）	計算・作表・作図等の課題に取り組む（1 時間）
11	合同発表会の準備（その 1）	発表資料の作成（3 時間）
12	合同発表会の準備（その 2）	発表資料の作成（3 時間）
13	合同発表会（予選）	発表の準備に取り組む（3 時間）
14	合同発表会（本選）	発表の準備に取り組む（3 時間）
15	合同発表会の振り返り、レポート作成	レポートを作成する（4 時間）
16（試験）		

成績評価基準	レポートと授業時間の平常点で評価する。評価割合は、前者が 40%、後者が 60%とする。なお、平常点の評価は、出席状況・宿題・授業への積極的参加・発表を総合的に勘案して行う。		
前提科目	特になし	後継科目	特になし
教科書	レジュメを配付する。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
注意事項	特に発表準備やレポート作成では、授業時間外の努力を期待する。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○				○	○			○					○		○	○	○		

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	阿部　公一	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	本演習は、課題ベース学習(PBL：Problem Based Learning)方式を取り入れることにより進めていきます。与えられたシナリオから、チームで最近の時事経済問題を調べることにより、日本が直面する政策課題を探っていきます。さらに、その成果を発表するために、チームを通じてプレゼンテーションの準備を進め、合同成果発表会に臨みます。				
到達目標	新聞等による時事経済問題を理解できるようにします。 職業的社会人に必要なコミュニケーション・発信力、チームワーク、リーダーシップ等のスキルを高めます。				
スキルの育成方法	新聞等を読み続ける訓練を通じて、人と社会への関心や課題発見力を育成します。また、チームでの作業やチームによるプレゼンテーションを通じて、コミュニケーション・発信力、チームワーク、リーダーシップのスキルを育成します。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	自己紹介の準備をしてくる(30 分)
2	図書館ガイダンス、参考文献の整理の仕方	新聞等から政策課題を調べてくる(1 時間)
3	本演習の進め方、合同発表会について、シナリオの提示	新聞等から政策課題を調べてくる(1 時間)
4	シナリオの読み込み、収集すべき記事・資料、個別学習の役割分担等	シナリオからキーワードを調べてくる(2 時間)
5	個別学習の発表による情報共有、追加学習項目の検討	役割分担による個別学習をしてくる(2 時間)
6	追加学習の発表による情報共有	役割分担による個別学習の追加をしてくる(2 時間)
7	課題の整理及び解決に向けてのディスカッション	課題の整理・解決をレジュメにまとめてくる(2 時間)
8	プレゼン用ソフトを利用した発表内容の作成	発表ストーリーをレジュメにまとめてくる(2 時間)
9	前回作成した発表内容の検討及び修正	必要な作業をチームで進めてくる(2 時間)
10	プレゼン用ソフトを用いた発表の練習	個別にスピーチ原稿を作成してくる(2 時間)
11	前回の反省及びプレゼン用ソフトを用いた発表の再練習	チームでスピーチ原稿の共有をしてくる(2 時間)
12	最終的な成果物の確認及び合同成果発表会に向けた役割分担	スライド・原稿の修正や追加をしてくる(3 時間)
13	合同成果発表会に向けたリハーサル	チームで相談しリハーサルをしてくる(3 時間)
14	合同成果発表会	チームで再度リハーサルをしてくる(3 時間)
15	発表の振り返りなど	チームで発表の振り返りをまとめてくる(30 分)
16（試験）		

成績評価基準	①毎回の基礎演習に対する積極的な参加の度合い(8 割)、②合同成果発表会での活躍、発表内容(2 割)により、総合的に評価します。		
前提科目		後継科目	基礎演習 b、政策入門、社会保障論Ⅰ・Ⅱ、公的年金論
教科書	特にありません。		
参考書	特に指定しません。		
注意事項	特に、政策コースに進むことを検討している方に履修をお勧めします。 シナリオで提示する時事経済問題は、主に、日本の経済、財政(税制)、社会保障、公的年金のいずれかを予定しています。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○				○	○			○					○		○	○	○		

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	内藤　悟	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	前半は身近な政府である地方自治体の活動を題材にして、テキストや資料を全員で読み進め、後半は、各自の関心で調べてきた内容を発表し、参加者同士で意見交換を行う。				
到達目標	地域社会の問題について意識を持ち、自らの関心に基づいて資料等を収集し、自分なりの意見を発表ができるようになることを目標とする。				
スキルの育成方法	分担報告を通じて読解力等を総合的に高める。各自の課題の発表の準備において、基礎的な PC ソフト、データベース等の利用を通じて情報リテラシーを高める。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	身近な政府　地方自治体とは	
2	地方自治体のしくみ	別途指示する資料等(30 分)
3	地方自治体のしくみ　議会	別途指示する資料等(30 分)
4	地方自治体のしくみ　知事・市長	別途指示する資料等(30 分)
5	地方自治体のしくみ　住民	別途指示する資料等(30 分)
6	メディアセンターツアー	
7	地方自治体のしくみ　条例	別途指示する資料等(30 分)
8	中間報告　　各自の関心に応じたテーマについて報告	各自のテーマをメディアセンター等で事前調査
9	地方自治体の課題　　ごみ	別途指示する資料等(30 分)
10	地方自治体の課題　　エネルギー	別途指示する資料等(30 分)
11	地方自治体の課題　　景観	別途指示する資料等(30 分)
12	地方自治体の課題　　まちづくり、空き家問題	別途指示する資料等(30 分)
13	発表会	発表内容について準備
14	発表会	
15	まとめ	
16（試験）	なし	

成績評価基準	出席時の発言・担当の報告５０％　最終レポート　５０％		
前提科目		後継科目	基礎演習 b、政策入門、社会保障論Ⅰ・Ⅱ、公的年金論
教科書	木佐茂男=田中孝男『自治体法務入門　第４版』ぎょうせい　ＩＳＢＮ　978-4-324-09502-7		
参考書	別途配布する。		
注意事項	各自の報告等の準備学習時間が必要となるので高い学習意欲のある学生の参加を希望する。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○					○			○	○	○	○		○	○	○	○

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　□ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、□ PBL、□ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、□ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○		

科目名（英語）	基礎演習ａ（Basic Seminar（ａ））	単位	2		
担当教員	斉藤　徹史	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	テーマ：「地方自治体の仕組みを学ぶ」　この演習では地方自治体で公務員として働くことに少しでも関心のある学生を対象に、地方自治体の組織や関係する法律、仕事内容などの基本を学びます。指定した本を全員で読んで議論するほか、実際に地方自治体の仕事を見学するなどして、地方自治体の現状と抱えている課題を調べ、その結果を発表します。				
到達目標	公務員になることを念頭においた、大学での学びのスタートとなります。 地方自治体の仕事を具体的にイメージできるようになります。				
スキルの育成方法	指定した３冊の本を各自が読んで、演習の参加者と議論します。 事実を把握する習慣や主体的に調べ、考える力を身につけるために、地方自治体の現場を見学し、公務員と対話します。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	
2	ガイダンス	
3	図書館ツアー、データベースの利用方法を学ぶ	図書館で学んだことをHPで再度見てみる（30分）
4	指定図書①　行政の仕事を知る　（行政の仕事について）	指定された本を読む（180分）
5	指定図書②　地方自治体の政策を学ぶ　（政策や地域課題について）	指定された本を読む（180分）
6	指定図書②　地方自治体の政策を学ぶ　（同上）	指定された本を読む（180分）
7	指定図書③　行政と社会を考える　（行政と社会の関係について）	指定された本を読む（180分）
8	指定図書③　行政と社会を考える　（同上）	指定された本を読む（180分）
9	地方自治体について「わかったこと」「わからないこと」をまとめる	３冊の本の疑問点をまとめる（30分）
10	地方自治体の見学、公務員との対話	学んだことを整理する（30分）
11	地方自治体の見学、公務員との対話	学んだことを整理する（30分）
12	地方自治体を見学して学んだことを整理し、発表の準備を行う	発表の準備を行う（60分）
13	発表の準備、予行演習を行う	発表の準備を行う（60分）
14	合同発表会	発表したときの反省点をまとめる（15分）
15	発表の振り返り	授業全体に関する感想文を書く（15分）
16（試験）		

成績評価基準	出席状況、課題の取組状況、グループワークでの貢献度、感想文の内容などを総合的にみて評価します。		
前提科目		後継科目	
教科書	指定図書はガイダンスのときに紹介します。各自で準備してください。		
参考書	ガイダンスのときに紹介します。		
注意事項	地方自治体の見学等は金曜日午後（２コマ連続）に行う予定です（日程は後日お知らせします）。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○			○			○		○				○		○				○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、□ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	佐野　治	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	心理学理論を用いた援助の理論と方法、特に面接を中心とした援助方法を事例で学ぶ。面接によって援助する内容は、「新たな社会問題」といわれている認知症、うつ病、自殺、虐待、アルコール依存、子育て不安などの諸問題である。このようなケースに対応できるソーシャルワーカーの育成を目指し、基本的な介入（面接）ができるように基礎知識を身に付け、技術を磨く。				
到達目標	援助の基本的知識と技術の基本を身に付け、簡単な面接(ケースワークとグループワーク)ができるようになる。				
スキルの育成方法	座学として、基本的な知識を提供し、それに対してグループ討論します。援助者と利用者の役割を学生同士が「ロールプレイ」を通して体験し、コミュニケーションスキル、対人関係の柔軟性、思考力、問題解決能力を養う。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	第１章　福祉課題への援助事例を通して援助の理論と技術を考える	福祉課題の予習１時間、第１章の復習１時間
2	第２章　高齢者(認知症等)を生活支援する援助事例	認知症の予習１時間、第２章の復習１時間
3	第３章　高齢者(閉じこもり等)を生活支援する援助事例	閉じこもりの予習１時間、第３章の復習１時間
4	第４章　障害者（パーソナリティ障害等）を生活支援する援助事例	パーソナリティ障害の予習１時間、第４章の復習１時間
5	第５章　障害者(双極性障害、うつ病等)を生活支援する援助事例	気分障害の予習１時間、第５章の復習１時間
6	第６章　障害者(統合失調症)を生活支援する援助事例	統合失調症の予習１時間、第６章の復習１時間
7	第７章　発達障害者(アスペルガー、ＡＤＨＤ)を生活支援する援助事例	アスペルガーの予習１時間、第７章の復習１時間
8	第８章　自殺予防と遺族支援のための援助事例	自殺予防の予習１時間、第８章の復習１時間
9	第９章　児童(虐待)を生活支援する援助事例	児童虐待の予習１時間、第９章の復習１時間
10	第 10 章　患者（アルコール依存症）を生活支援する援助事例	依存症の予習１時間、第 10 章の復習１時間
11	第１１章　ゴミ屋敷問題を抱える人を生活支援する援助事例	ゴミ屋敷の予習１時間、第 11 章の復習１時間
12	第 12 章　ひきこもりの人を生活支援する援助事例	ひきこもりの予習１時間、第 12 章の復習１時間
13	第１３章　合同発表会のための準備～プレゼンの方法と注意点～	「プレゼン」の予習１時間、第 13 章の復習１時間
14	第１４章　合同発表会	発表会のための予習１時間、第 14 章の復習１時間
15	第１５章　合同発表会の反省～プレゼンの仕方を振り返る～	発表内容方法の反省１時間、第 15 章の復習１時間
16（試験）		
成績評価基準	欠席状況(2 割、減点方式)、中間レポート(２割)、レポート(6 割)	
前提科目	なし	後継科目　基礎演習ｂ
教科書	特になし。教員作成のプリント(第１章～第１５章)を使用する。	
参考書	講義中に適宜指示する。	
注意事項	自分の身近な問題に引き付けて考えてほしい。	

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○			○												○			

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

関する学習 地域に	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○		
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	澤邉　みさ子	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	近年、いろいろなところで見聞きするようになった「バリアフリー」。この公益自由研究ではまずバリアフリーについて調べ、知るところから始まります。その上で各自がバリアフリーを主題にして課題の設定を行い、それについてさらに詳しく調べ、考えていきます。また、バリアフリー化を実現する一つの手段として、酒田市の中心市街地の福祉マップを実際に作成します。				
到達目標	自分たちで調べ、自分たちで考え、自分たちで体験するという経験を通して、バリアフリーについての理解を深める。				
スキルの育成方法	調べる、考える、まとめる、発表する、という機会をできるだけ多く体験し、その中でスキルを身につける。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談／ガイダンス（授業の内容、進め方の説明）	本演習でやってみたいことを考える（30 分）
2	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて基礎的な知識を得る	バリアフリーとは何かを調べる（30 分）
3	図書館ガイダンス （バリアフリー、ユニバーサルデザインについて、資料で学ぶ	資料を読んでまとめる（1 時間）
4	バリアフリーをテーマに課題設定を行い、調査方針・方法を検討する	自身の関心のあることについて考える（30 分）
5	福祉マップについて調べ、知識を得る	福祉マップについて調べる（1 時間）
6	大学構内での予備調査とその振り返り	前回の講義内容の復習（1 時間）
7	福祉マップの調査・作成にむけた計画をたてる	予備調査の振り返りをまとめる（1 時間）
8	福祉マップ作成のためのまちなか調査①（「まちなか」の概要把握）	調査ポイントについての確認（30 分）
9	福祉マップ作成のためのまちなか調査②（本調査）	前回の調査の振り返り（30 分）
10	福祉マップの作成（マップ作成の方針を決める）	前２回の調査結果についてまとめる（1 時間）
11	福祉マップの作成（マップを実際に作成する）	福祉マップ作成方針の復習・確認（30 分）
12	福祉マップ及びその製作過程を踏まえ、各自の調査を進める	福祉マップの製作過程を振り返る（30 分）
13	発表準備（プレゼンテーションの準備、練習）	プレゼン資料の準備（30 分）
14	合同発表会	プレゼン内容の確認（30 分）
15	発表・プロジェクトの振り返り	授業内容全体についてまとめる（2 時間）
16（試験）		

成績評価基準	授業への参加の姿勢、作業状況（発表準備、レポート作成なども含む）によって評価します。		
前提科目	なし	後継科目	なし
教科書	教科書は使用しません。		
参考書	参考書は授業中に適宜紹介する。		
注意事項	この授業では、バリアフリーについて一から調べます。受講前にバリアフリーについての知識は必要ありません。必要なのはバリアフリーについての関心と、参加する気持ちです。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○				○				○	○			○	○	○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

関する学習 地域に	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○	○	

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	武田　真理子	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	「私たちに身近な社会保障・社会福祉の調査研究－自分のテーマを見つけよう－」 受講生の関心テーマや問題意識をもとに、私たちの身の回りの社会保障・社会福祉の現状や課題について学ぶ。自分たちで調べ、考え、そしてその成果をまとめ、発表することを通して、大学での自分の学びのテーマを探る。				
到達目標	1．大学での学びに必要な学習方法（調べる、考える、まとめる、発表する）を修得する。　2．社会保障・社会福祉の現状・課題への理解を深める。　3．自らの学びのテーマ（関心テーマや問題意識）を探る。				
スキルの育成方法	メディア･センターの文献、資料を用いた調査研究、輪読、フィールドワーク、レポート作成、発表などを通して、受講生一人ひとりの関心テーマや問題意識を探求し、大学における学びの基本的な姿勢を養う。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	授業の進め方に関する話し合い、メディア･センター･ツアー	自身の関心テーマの整理・0.5hr
2	関心テーマの抽出（メディア・センターを利用し、調べる）	輪読文献･資料の読み込み・2hr
3	講義～社会保障・社会福祉の現状と課題～	輪読文献･資料の読み込みとレジュメ作成・2hr
4	基本文献・資料の輪読１回目	輪読文献･資料の読み込みとレジュメ作成・2hr
5	基本文献・資料の輪読２回目	輪読文献･資料の読み込みとレジュメ作成・2hr
6	基本文献・資料の輪読３回目	輪読文献･資料の読み込みとレジュメ作成・2hr
7	関心テーマの研究①（文献等から探す･調べる）	輪読の内容の復習、質問の整理・1hr
8	関心テーマの研究②（文献等から調べたことをまとめる）	CiNii を利用して論文や記事を調べる・1.5hr
9	関心テーマの研究③（フィールドワークにより調べる）	フィールドワーク先について調べる・1.5hr
10	関心テーマの研究④（フィールドワークにより調べる）	フィールドワーク先について調べる・1.5hr
11	関心テーマの研究⑤（フィールドワークにより調べたことをまとめる）	フィールドワークの内容をまとめる・2hr
12	発表の準備①（研究の成果をまとめ、発表内容を決める）	前回までの調査研究の内容をまとめる・1.5hr
13	発表の準備②（発表資料の作成）	発表の準備に取り組む・1.5hr
14	発表の準備③（発表の練習を行う）	発表の準備に取り組む・1.5hr
15	合同発表会（予選）	レポートを完成させる・3hr
16（試験）	振り返り、レポートの提出	レポートを完成させる・3hr

成績評価基準	授業に臨む姿勢（主体性、チームワークなど）と各自の発表の内容やレポートに基づいて評価を行う。		
前提科目		後継科目	基礎演習 b
教科書	具体的な授業の進め方、輪読書等については最初の授業で話し合う。必ず初回授業に出席すること。		
参考書			
注意事項	講義形式の体系的な授業とは異なり、各自の関心に基づき、他の受講者と協力し合いながら学んでいきます。 大学における学びのための基礎力を身に付けるための授業です。受講生の積極的な参加を求めます。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○				○														○	

［資　格］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、□ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	竹原　幸太	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	子育て支援、学力問題、児童虐待、いじめ、非行、不登校、ひきこもり、小児科医不足等、現代社会において子どもと関わる問題は山積している。逆に考えれば、子どもの問題は多様な学問領域の知見を結集し、包括的な視野から捉えていく必要がある。本講義では履修者が関心のある子どもの問題（テーマ）を選択し、それを深めていく上で必要な学習方法を学びつつ、そこで習得した成果をまとめ、発表する力を養うことを目的とする。				
到達目標	現代の子ども問題を考察・整理していく方法として、文献検索、先行研究の概観（文献の読み方）、文献の引用方法、レポート作成方法等を学び、それらを報告する力を養う。				
スキルの育成方法	グループの共同学習により、他者とのコミュニケーション力を育成しつつ、自身のテーマを深める主体性を育成する（1～5回は大学で学ぶ基礎、6～9は個人報告の方法、11～15 はグループ報告の方法を主に学ぶ）。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	大学での学びの予習（60 分）、板書の復習（60 分）
2	文献検索法（メディアセンターツアー）	図書館についての予習（30 分）、図書検索（60 分）
3	文献の紹介	文献の読み込み（60 分）、文献の復習（60 分）
4	子ども問題入門	参考書の読み込み（60 分）、宿題の実施（60 分）
5	子ども期理解まとめ	同上
6	レポート作成法	1～5の復習（60 分）
7	個人報告①	報告準備（60 分）、報告の加筆（60 分）
8	個人報告②	同上
9	個人報告③	同上
10	グループ学習入門	6～9 の復習（60 分）、宿題の実施（60 分）
11	グループ報告の作成	グループ報告準備（60 分）、修正点の確認（60 分）
12	グループ報告の修正・完成	同上
13	グループ報告リハーサル	同上
14	合同報告会	グループ報告準備（60 分）、振り返り（60 分）
15	まとめ	全回の復習（60 分）、授業の総括（60 分）
16（試験）		

成績評価基準	毎回の出席を前提として、レポート等の提出物、受講態度（授業の感想、グループ作業等）により評価する。		
前提科目		後継科目	基礎演習 b
教科書	適時、レジュメを配布		
参考書	日本子どもを守る会編『子ども白書 2015』本の泉社、2015（ISBN978-4-7807-1233-9）		
注意事項	他の授業でも必要となる基本的な学習方法の習得とともに、子どもの問題を包括的に捉えていく視野を学ぶ。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○								○									○		

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○		
	他地域		○		

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	小関　久恵	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	“「聞き書き」にチャレンジしてみよう” 庄内地域に生きる人々の生活や文化、歴史等について「聞き書き」の手法をとおして理解を深め、生活者としての視点を養う。				
到達目標	聞き書きをとおして、①庄内地域や庄内の人々を知る、②話を「聴く力」や「文章をまとめる力」をつける、③他者（の人生、生き方）との出会いによって、今の自分や将来の自分の生き方について考えられるようになる。				
スキルの育成方法	・「聞き書き」という手法、またクラス全体での学び合いにより上記スキルを育成する				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	自己紹介、聞き書きとは何か	聞き書き作品の資料読み込み（30 分）
2	聞き書き作品を読む	復習と予習（45 分）
3	聞き書きプレ実践～聞く～	復習と予習（45 分）
4	聞き書きプレ実践～書く～	復習と次回（地域のことを知る）の予習（60 分）
5	聞き書きに向けた事前学習～地域のことを知る～	復習と次回の（相手のことを知る）予習（60 分）
6	聞き書きに向けた事前学習～相手のことを知る～	復習と次回の（質問を考える）予習（60 分）
7	聞き書きに向けた事前学習～質問を考える～	復習と聞き書き実践に向けた準備（60 分）
8	聞き書き実践（フィールドワーク）	フィールドワークのふりかえりと予習（60 分）
9	作品まとめ～書き起こす～	書き起こし作業（60 分）
10	作品まとめ～文章を整える～	文章の整理作業（60 分）
11	作品まとめ～編集する～	文章の編集作業（60 分）
12	作品まとめ～製本する～	合同発表会に向けた準備（60 分）
13	合同発表会に向けた準備	合同発表会のふりかえりレポート作成（60 分）
14	聞き書き作品の発表（合同発表会）	全体のふりかえりワーク（60 分）
15	合同発表会と全体のふりかえり（グループディスカッション）	
16（試験）		
成績評価基準	成果物（聞き書き作品）とその取り組み状況によって評価する	

前提科目		後継科目	基礎演習ｂ
教科書	適宜資料を配布します。		
参考書	適宜資料を配布、または紹介します。		
注意事項	・第８回の実践では、授業時間外にフィールドワークを実施する予定です。 ・予習やまとめ（復習）など、授業時間外の学習・作業が多くなりますので、その点を理解した上で履修してください。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
							○		○	○	○	○		○	○			○		

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、■ PBL、□ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	○

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	森　彰夫	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	酒田港と花王酒田工場のグローバルな地域創生に関する PBL（Project Based Learning)を行う。				
到達目標	学びの導入（学びの姿勢の転換、主体的な学修）、スチューデントスキルの育成(時間管理、自己管理、受講態度、マナー、友人関係、協調性)、スタディスキルの育成（図書館活用法、データベース、読解の技法、レジュメ作成、レポート作成、プレゼンテーション）を行う。				
スキルの育成方法	PBL（Project Based Learning)				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	
2	酒田港の物流に関する概説	酒田港に関する情報収集、1 時間
3	花王酒田工場の概説	花王酒田工場に関する情報収集、1 時間
4	図書館ツアー	
5	テーマ設定・ブレーンストーミング	酒田港と花王酒田工場に関する情報整理
6	フィールドワーク調査（酒田港と花王酒田工場見学）	質問事項準備
7	フィールドワーク調査（花王酒田工場長インタビュー）	質問事項準備
8	課題抽出・ブレーンストーミング	フィールドワーク調査結果の整理
9	課題分析・ブレーンストーミング	フィールドワーク調査結果の分析
10	提案検討・プレゼンテーション準備	アウトラインの準備
11	提案検討・プレゼンテーション準備	
12	提案検討・プレゼンテーション準備	
13	提案検討・プレゼンテーション準備	
14	合同発表会	
15	発表の振り返り	
16（試験）		

成績評価基準	演習中のディスカッションへの参加状況、発表状況や出席状況で評価する。		
前提科目		後継科目	
教科書	特になし		
参考書			
注意事項			

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○		○			○				○	○		○			

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	呉　衛峰	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	明治時代前後の新漢語の成立について： 大学における勉強のもっとも基本的スキルを身につけるうえ、西洋文明との接触を通して明治時代前後に成立した新漢語をテーマに文献を調べ、パワーポイントを使用して発表する。				
到達目標	課題発見・文献調査の方法、論理的思考能力、発表の仕方をマスターする。				
スキルの育成方法	履修者が与えられた課題に即して自分の手で調査し、その結果を論理的に組み立て、パワーポイントによる発表の技法を身につける。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	ガイダンス：自己紹介	1時間
2	大学における勉強とは何か	1時間
3	人文学における資料調査の方法について	1時間
4	図書館ツアー、資料調査の実践	1時間
5	発表テーマについての概論	1時間
6	発表の段取りについての勉強	1時間
7	発表テーマについての文献精読	2時間
8	各自による文献精読の報告	2時間
9	発表テーマについての文献整理	2時間
10	ディスカッションと発表分担の調整	2時間
11	発表の準備（1）：発表原稿を用意する	2時間
12	発表の準備（2）：発表原稿に基づいてパワーポイント作成の開始	2時間
13	発表の準備（3）：パワーポイントの修正と発表の練習	2時間
14	発表の準備（4）：クラス内における発表および相互評価、修正	2時間
15	合同発表会	2時間
16（試験）	合同発表会の振り返り	1時間

成績評価基準	授業参加３割、課題調査と報告３割、パワーポイント発表４割。		
前提科目	なし	後継科目	なし
教科書	なし。プリント配布。		
参考書	授業中に適宜指示する。		
注意事項	授業時間外における文献の調査と読み込みや、発表準備作業等が必須である。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○				○			○												

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a (Basic Seminar (a))	単位	2		
担当教員	松田　憲	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	英語の効果的なスピーチテクニックを学び、受講者全員に英語プレゼンテーションを実践してもらう。 英語で原稿と発表用スライドを作成し、言語・非言語メッセージの両面に配慮しながら発表を行う。 聞き手も、発表者のプレゼンテーションを聞き流すのではなく、評価表を使って客観的に評価するための訓練を行う。				
到達目標	スタディスキルとスチューデントスキルの育成を図り、自信を持って人前で英語プレゼンテーションができることを目指す。				
スキルの育成方法	関連資料の輪読や図書館ガイダンス等を通じて上記スキルの育成を図り、英語プレゼンテーションの実践によって養成する。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	ガイダンス（アドバイザー面談、スタディスキル、スチューデントスキル）	面談に必要な書類作成（1 hour）
2	ビデオでスピーチでの注意点を学ぶ、スピーチ原稿作成の仕方、図書館ガイダンス（CiNii 等の各種データベース利用の仕方とツアー）	配布資料を読む（1 hour）
3	ビデオ（学生発表例）で効果的なスピーチ・テクニックを学び、Youtube の模範スピーチから学ぶ。発表スライドの作成の仕方について（発表サンプル）	配布資料を読む（1 hour）
4	スピーチ原稿作成(Introduction)	Introduction 作成（1 hour）
5	スピーチ原稿作成(Body①)	Body①作成（1 hour）
6	スピーチ原稿作成(Body②)	Body②作成（1 hour）
7	スピーチ原稿作成(Conclusion)	Conclusion 作成（1 hour）
8	発表用スライドの作成	スライド作成（1 hour）
9	発表用スライドの作成、スピーチ発表練習①	スライド作成(1 hour)
10	発表用スライドの作成、スピーチ発表練習②	スライド作成(1 hour)
11	スピーチ発表、評価	Practice（1 hour）
12	各発表の問題点の確認と修正、スピーチ発表練習③	Practice（1 hour）
13	合同発表会に向けたスピーチ発表練習	Practice（1 hour）
14	合同発表会	Practice（1 hour）
15	発表の振り返り	振り返りの内容整理（1 hour）
16（試験）		

成績評価基準	出席・取り組み状況、発言 20%、英語スピーチ発表 80%		
前提科目	なし	後継科目	なし
教科書	資料を配布しますが、英和・和英辞書は必携（毎回の授業で両方使います）。		
参考書			
注意事項	英語スピーチに関心があり、やる気のある意欲的な学生の参加を望みます。英語での発表を通じて自分の殻を破ってみよう！		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○				○			○												

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習 ■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□ 課題学習、□ PBL、□ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	Maree Sugai	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	A discussion based class with an emphasis on research; opinion and idea sharing in English.				
到達目標	To allow students interested in English culture and language to interact with a native speaker and compare ideas				
スキルの育成方法	Students will learn how to make a power point presentation in English on a topic of their choice.				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	Introducing ourselves.	40 minutes preparation.
2	Surveys and research. Topics of interest. Hobbies.	40 minutes preparation,
3	Designing a survey questionnaire. Introduction to e-learning.	40 minutes e-learning.
4	Delivering survey results and formulating results manually.	40 minutes e-learning
5	Group discussion.	40 minutes preparation.
6	Vocabulary game and learning tips.	30 minutes preparation.
7	Comparative culture.	1 hour preparation e-learning.
8	Integrating group ideas.	40 minutes preparation.
9	Collectivism versus individualism.	1 hour preparation time.
10	E-learning session.	40 minutes e-learning.
11	Individual speeches.	40 minutes preparation.
12	Group language transfer game.	40 minutes e-learning.
13	Reading time.	40 minutes e-learning.
14	Discussion on topic choice.	40 minutes preparation.
15	Preparation for presentation.	40 minutes e-learning.
16（試験）	Presentation.	

成績評価基準	30% group participation, 30% attendance and 40% final group presentation contribution.		
前提科目	なし	後継科目	なし
教科書	No text book.		
参考書			
注意事項	Dictionary is essential. Phone dictionary is acceptable.		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○	○	○	○	○					○	○		○	○	○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　□ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習(a)（Basic Seminar (a)）	単位			
担当教員	狩野　晃一	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	イギリス、あるいは広くヨーロッパの言語・文化に触れながら、大学生としての学修方法（文献資料の使い方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方など）を学びます。具体的には、書き残された資料を元に、文学的に読み解いたり、語学的な観点から文献に接する態度を養う。				
到達目標	大学での勉学を進めるための技能を高め、自律的な学習習慣を身につける。				
スキルの育成方法	図書館での文献検索、文献の精読、レポートの発表、グループワークなどを通して、大学生に必要なスキルを育成する。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	イントロダクション、ブレインストーミング	各自ヨーロッパについて興味のあること、その理由などを考える。(30 分)
2	図書館ガイダンス	図書館で入手した文献を読む（1 時間 30 分）
3	資料の収集法、資料の調べ方、	図書館で入手した文献を読む（1 時間 30 分）
4	文献講読（1）	指定された文献を入手し、要旨をまとめる。(1 時間)
5	文献講読（2）	指定された文献を入手し、要旨をまとめる。(1 時間)
6	文献講読（3）	指定された文献を入手し、要旨をまとめる。(1 時間)
7	小プレゼンテーション（1）	プレゼンテーション準備、他人の発表を聞いて批評の練習。(1 時間)
8	小プレゼンテーション（2）	プレゼンテーション準備、他人の発表を聞いて批評の練習。(1 時間)
9	小プレゼンテーション（3）	プレゼンテーション準備、他人の発表を聞いて批評の練習。(1 時間)
10	レポート、文章のまとめ方	指定するレポートのまとめ方についての書籍を
11	合同発表会準備（発表原稿（1 案）作成）	各自発表原稿（1 案）に必要な文章の作成（1 時間～1 時間 30 分）
12	合同発表会準備（発表原稿（2 案）作成）	各自発表原稿（2 案）に必要な文章の作成（1 時間～1 時間 30 分）
13	合同発表会準備（発表原稿（最終）完成、パワーポイント作成）	各自発表原稿（最終）に必要な文章の作成（1 時間～1 時間 30 分）
14	合同発表会	原稿の読み込み、プレゼンテーションの打ち合わせ（グループワーク）(1 時間 30 分)
15	発表の振り返り	発表についてのレポート作成（1 時間 30 分）
16（試験）		
成績評価基準	毎回必ず出席すること。課題の提出（５０%）、積極的な発言・参加（３０%）、合同発表会等プレゼンテーション（２０%）	
前提科目	なし	後継科目　なし
教科書	初回の授業で指定する	
参考書	必要に応じて適宜指定する。	
注意事項		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
		○		○	○		○			○	○	○						○		

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、■ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	スルトノフ・ミルゾサイド	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	地域や日本と国際経済の相互依存について学ぶ。				
到達目標	関連するデータと文献を使用し、決定された発表テーマについてレポートとプレゼンテーション資料を作成する。				
スキルの育成方法	グループで関連するトピックとデータを比較して議論する。レポート作成とプレゼンテーション方法を学び、担当教員の指導のもとで自分の発表を準備する。勉強を楽しく効果的にする方法で学ぶ。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
2	大学と地域の歴史について	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
3	勉強を楽しく効果的にする方法を学ぶ	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
4	地域や日本と国際経済の相互依存	演習中に与えられたタスクに取り組む　（2時間）
5	図書館ガイダンス	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
6	発表テーマの決定	演習中に与えられたタスクに取り組む　（2時間）
7	レポート作成とプレゼンテーションについて学ぶ	演習中に与えられたタスクに取り組む　（2時間）
8	データベースと文献（出所）を使用する方法	演習中に与えられたタスクに取り組む　（2時間）
9	教育のためのオーディオ、ビデオ、写真を使用する方法	演習中に与えられたタスクに取り組む　（2時間）
10	オーディオ、ビデオ、写真材料の作成	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
11	レポートとプレゼンにオーディオ、ビデオ、写真を使用する方法	演習中に与えられたタスクに取り組む　（2時間）
12	発表資料の準備	演習中に与えられたタスクに取り組む　（3時間）
13	発表の準備	演習中に与えられたタスクに取り組む　（3時間）
14	合同発表会	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
15	発表の振り返り	演習中に与えられたタスクに取り組む　（1時間）
16（試験）		

成績評価基準	演習への取り組み　（50%）、　プレゼンテーション　（50%）		
前提科目		後継科目	
教科書	使用する文献は演習内で決定する。		
参考書	使用する文献は演習内で決定する。		
注意事項	演習を日本語と英語で行う。高校生レベルの英語がわかる学生向けの演習ですが、英語が得意でない学生の参加も歓迎する。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○								○					○			○	○		

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　□ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、□ PBL、□ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、□ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

関する学習 地域に	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内		○	○	
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar(a)）	単位	2		
担当教員	伊藤　眞知子	科目ナンバー	SLA101	**開講時期**	春学期
授業概要	地域における子育て支援をテーマとする。子どもを生み育てることは人生における喜び・楽しみであるはずなのに、少子化の進む現代社会では、そのコストや負担感が増している。少子化の現状や子育て支援制度について学び、庄内地域における子育て支援や子育て中の家族の現状のなかから課題を明らかにして、望ましい子育て家族のあり方や支援策をともに考える。				
到達目標	教室での講義と現場体験との往復による学びを重ね、地域における子育て支援の課題を把握し、各自が将来の自らの家族形成や子育てについて考えをまとめることを目標とする。				
スキルの育成方法	新聞記事のクリッピング、関連書籍の精読、フィールドワーク、ディスカッション等を通じて、一人ひとりの「感じる」「読む」「話す」「書く」「チームで協働する」力を伸ばしていく。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	ガイダンス、アドバイザー面談	第 1 セメスターの目標を考える・1h
2	図書館ガイダンス（ツアー）	単独で図書館利用・子どもについて調べる・1.5h
3	子どもを産み育てるということ	関連書籍・資料の予習・復習・1h
4	子育てと家族	関連書籍・資料の予習・復習・1h
5	子ども・子育て支援の現状と課題	関連書籍・資料の予習・復習・1h
6	地域における子育て家族（外部講師）	質問を準備する・復習・1h
7	自治体の子育て支援施策①（フィールドワーク）	Web サイト「TOMONI」の閲覧・記録作成・1.5h
8	自治体の子育て支援施策②	資料整理・振り返り・1.5h
9	NPO による子育て支援活動①（フィールドワーク）	Web サイト「TOMONI」の閲覧・記録作成・1.5h
10	NPO による子育て支援活動②	資料整理・振り返り・1.5h
11	地域における子育て支援の課題と展望①：話し合い	分担作業・1h
12	地域における子育て支援の課題と展望②：提案作成	発表に向けた分担作業・1h
13	発表準備（スライド、配布資料等作成）	発表準備・1h
14	合同発表会	発表準備・振り返り・1.5h
15	振り返り・まとめ	レポート作成・4h
16（試験）		

成績評価基準	演習への参加状況（2 割）、毎回の振り返りシート（3 割）、発表への貢献度（3 割）、まとめのレポート（2 割）2000 字程度。		
前提科目		**後継科目**	
教科書	とくに指定しない。		
参考書	書籍リストを授業のなかで紹介する。		
注意事項	・4～5 時限に続けてフィールドワークを行うことがあるので、5 時限を空けておくこと。 ・地域における子育ての現場にじかに触れ、仲間とともに楽しく学んでいきましょう。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○		○		○	○							○		○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

関する学習 地域に	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○		
	他地域		○		

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	温井　亨	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	須賀敦子のエッセイ「ミラノ霧の風景」を読むかたわら、大学周辺の美術館や酒田市内の庭園、町家を訪ねます。そして酒田とミラノについての地図付きガイドブックをつくります。酒田については、４月からの新生活と授業で訪ねた場所をもとに、ミラノについては、須賀敦子のエッセイに出て来た場所をもとに作成します。				
到達目標	一流のエッセイを読めるようになることが第一の目標です。それには国語力、知識、精神的な成熟が求められます。第二の目標は場所の魅力、場所の力を味わえるようになることです。第三の目標はそれを表現する力を身につけることです。				
スキルの育成方法	本を読むこと、実際に見て歩くこと、地図上にプロットすること、それを文章で表現すること、そして多くの聞き手の前でプレゼンテーションすることで育成します。写真を取り込んだワードによるレポート作成は繰り返し行います。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談、ガイダンス	
2	図書館の使い方	予習：読書３時間
3	土門拳記念館見学	予習：読書３時間、復習：見学レポート３時間
4	酒田市美術館見学	予習：読書３時間、復習：見学レポート３時間
5	出羽遊心館見学	予習：読書３時間、復習：見学レポート３時間
6	「ミラノ霧の風景」を読む	予習：読書３時間、場所レポート３時間
7	「ミラノ霧の風景」場所レポート	予習復習：場所レポート各３時間
8	本間美術館見学	復習：場所レポート３時間、見学レポート３時間
9	荒木米店訪問	復習：場所レポート３時間、見学レポート３時間
10	ガイドブック作成	予習復習：ガイドブック作成６時間
11	ガイドブック作成	予習復習：ガイドブック作成６時間
12	クラス内発表会	予習復習：プレゼンテーション６時間
13	プレゼンテーション準備	予習復習：プレゼンテーション６時間
14	発表会	予習復習：プレゼンテーション６時間
15	振り返り	
16（試験）	なし	

成績評価基準	出席、エッセイの場所レポート、見学先レポート、ガイドブック作品、プレゼンテーション各２０％で評価します。		
前提科目		後継科目	基礎演習ｂ
教科書	須賀敦子「ミラノ霧の風景」白水社　ISBN978-4560073575、あるいは河出書房新社　ISBN978-4309420516（各自、購入してもらいます）		
参考書			
注意事項	5月１４日、6月１１日、7月９日の、ぶら探酒田（9:00～12:00 で行う酒田の街歩き）に参加すること。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○								○					○			○		○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a) ）	単位	2		
担当教員	呉　尚浩	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	講義テーマ：「いのち」を学ぶ ― 庄内地域の自然と人々に出会う ― 庄内地域を中心に、農林水産業に従事する方、市民・行政・企業で環境保護に取り組む方、自らの生活に自然との共生を工夫している方など、自然との深い関わりの中で生きる方々を訪ね、身近な自然を守ることや地域づくりについて学びます。その中で、自然と共に生きるための智恵を体験的に学び、私たちの暮らしを「公益の視点」から見つめ直します。さらに、自然の豊かさ、美しさ、生命力を受け取る感性を養う学びや、森林整備や海ごみクリーンアップボランティア、田んぼの生き物調査、飛島での地域づくりワークショップなどを行います。				
到達目標	「自分と自然との関わり」を問い直し、自身の「内なる生命力」を再発見することによって、「生きるということ」を深めます。				
スキルの育成方法	「体験する（動く・出会う・感じる）力」「調査する（見る・聞く・読む・調べる）力」「発表する（書く・話す・議論する）」力を育成します。また、フィールドワークで、課題発見力、主体性、チームワーク、コミュニケーション力を育成します。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	ガイダンス・自己紹介　※以下（*）印はフィールドワーク	復習用資料を読む・0.5h
2	庄内海岸林見学*	感想レポート作成・0.5h
3	フィールドワークのための事前・事後学習１	予習・復習用資料を読む・1h
4	図書館ツアー	感想レポート作成・0.5h
5	飛島クリーンアップ作戦参加１（海ごみクリーンアップ）＊	感想レポート作成・0.5h
6	飛島クリーンアップ作戦参加２（島内散策）＊	感想レポート作成・0.5h
7	飯森山水田における生き物調査*	感想レポート作成・0.5h
8	飯森山水田におけるカブトエビ生息調査*	感想レポート作成・0.5h
9	フィールドワークのための事前・事後学習２	予習・復習用資料を読む・1h
10	森林整備作業参加*	感想レポート作成・0.5h
11	飛島合宿（飛島における地域づくり活動を学ぶ）＊	感想レポート作成・0.5h
12	飛島合宿（飛島における地域づくり活動を学ぶ）＊	感想レポート作成・0.5h
13	合同報告会のための発表準備作業	感想レポート作成・0.5h
14	他基礎演習との合同報告会	感想レポート作成・0.5h
15	まとめ ― 庄内地域の自然と人々から学んだこと	復習用資料を読む・0.5h
16（試験）		

成績評価・基準	期末の試験・レポートは実施せず、毎回行なう感想レポートで評価します。		
前提科目	なし	後継科目	なし
教科書	テキストは定めず、各テーマごとに資料を配付。		
参考書	授業中に紹介する。		
注意事項	「自然と共に生きる地域づくり」の実践的な学び（調査、実践、提言等）、専門演習・地域の公益活動等と連携した活動を行います。／ 参加者の関心・都合に合わせて、内容・日程を相談の上決めます。／ フィールドワークのために、授業は火曜４時限だけでなく、数回ほど火曜５時限連続、もしくは土・日等に行います。／5 月 30 日（土）に飛島クリーンアップ作戦（日帰り、参加費用はなし）、⑵ 7 月上旬に飛島合宿を行う予定です（土・日の１泊２日、参加費用は食費のみ 2000 円程度）。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○												○	○	○	○

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	渡辺　暁雄	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	酒田市を中心に庄内地域の「モノ」（日常生活製品から文化財的建築物まで含まれる）「コト」（日々の暮らしの出来事から祭りやイヴェントまで含まれる）「ヒト」（身近な人から有名人まで含まれる）について調べ，発信する。大学生活で必要な調査技法（特に質的な）と，その取りまとめ，発表の方法・作法を学び，「モノ」「コト」「ヒト」を通して，酒田（あるいは庄内地域）の文化を探っていく。最終的には授業で作成した成果物をもとに，基礎演習 a の合同成果発表会（13 回目以降）で発表し，優劣を競う予定である。				
到達目標	1．成果（報告書）などをつくる 2．大学生としての授業への取り組み方がわかり実践できるようにする 3．目標を実現するための時間管理や自己管理ができるようにする				
スキルの育成方法	学生の主体性およびチームワークを醸成するため，プロジェクト形式で授業を運営する。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	導入――大学で学ぶということ	ガイダンスにしっかり参加しよう。（所定時間）
2	図書館の使い方	大学の図書館に行って一通り書架を閲覧。図書館に行く習慣をつける（2 時間以上）
3	写真家・「土門拳」　その人物について調べ・作品鑑賞（土門拳記念館）	土門拳について文献調査・発表準備（2 時間以上）
4	土門拳と地域（酒田）及び作品と精神についての発表・討論会	発表準備・討論での意見とりまとめ（2 時間）
5	「酒田まつり」の文献調査・発表	「酒田まつり」文献調査（2 時間）・まつり参加申請⇒教務学生課
6	「酒田まつり」への参加	課題ワークシート記入（2時間）
7	地域と祭りの関係性について発表	地域とまつりについて体験を通して調べる。討論での意見とりまとめ（2 時間）
8	北前船と庄内・山形についての文献調査・発表	北前船の文献調査・報告書作成（2 時間以上）
9	北前船に関するフィールドワーク（酒田市内）	課題ワークシート記入（2時間）
10	北前船と庄内文化について発表	北前船と庄内文化について調べる・とりまとめる（2 時間以上）
11	発表会へ向けてのテーマ設定	以降，必要に応じて時間外にも合同作業する
12	発表資料作成（レジュメ、パワポ、その他）	〃
13	発表会を想定した予行演習	〃
14	発表会予選	〃
15	発表会本戦	〃
16（試験）	振り返り	この演習で得たもの・成長した点を文章化する（2 時間）
成績評価基準	授業への取組み状況 60 点、発表会 20 点、成果物の完成度 20 点	
前提科目	なし	後継科目　基礎演習 b
教科書	関係資料を毎時配布する。	
参考書	講義時に指示する。	
注意事項	フィールドワークをともなうため，授業時間を超えてしまうことがあるので注意。	

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○				○		○			○			○	○	○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○	○	

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	松山　薫	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	地理学は、地域を研究対象として扱ってきた長い歴史をもつ。この講義では、地理学の視点から、地域にかかわる諸課題を分析するうえで欠かすことのできない、地図の利用を中心とした基本的な地域分析手法を学ぶ。				
到達目標	文献資料の収集法、地図や空中写真などの空間データや各種統計データの収集と利用法、主題図作成、フィールドワークの手法、レポートのまとめ方、発表する方法などを身につける。				
スキルの育成方法	地形図の読図を出発点として各自主体的にテーマを決め，地域の特色ある自然・人文事象を発掘し，記録し，発信する.				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	次回講義資料予習（３０分）
2	地図とは何か，地図から何がわかるのか	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
3	図書館ガイダンス	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
4	地形図の種類・入手方法	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
5	地形図の扱い方	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
6	旧版地形図の魅力	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
7	地形図読図（1）地図記号	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
8	巡検（1）珍しい地図記号，地域独自の土地利用	巡検レポート作成（2 時間）
9	地形図読図（2）土地利用，尾根と谷	復習（1 時間），次回講義資料予習（３０分）
10	巡検（2）飯森山	巡検レポート作成（2 時間）
11	巡検（3）赤川旧河道	巡検レポート作成（2 時間）
12	データベースによる文献収集	収集文献の整理（1 時間）
13	発表準備	発表準備（3 時間）
14	合同発表会	発表準備（3 時間）
15	発表の振り返り	改善点等の検討（30 分）
16（試験）		

成績評価基準	課題、小テスト、参加態度等。		
前提科目		後継科目	
教科書	指定しない。大学近辺および任意の場所の地形図を購入してもらう（授業中に指示）。		
参考書	授業中に指示。		
注意事項	校外での授業実施（巡検）も含む。巡検は金曜午後に行う場合もある。なお、シラバスの各回の順番や扱う分量の多寡は、受講生の理解度や課題の進捗度に即して変化する可能性がある。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
					○		○		○	○										

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　□ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、■ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	遠山　茂樹	科目ナンバー	SLA 101	開講時期	春学期
授業概要	この演習では、近年、注目をあつめている「世界遺産」について、さまざまな角度からアプローチしてみる。そもそも世界遺産は、いつ、どこで、だれによって、なにを基準に、どういう手続きを経て決定されるのか。教室では、ヨーロッパを中心に世界各国の世界遺産を「映像」で訪ね、それをもとに自由に討論をする。				
到達目標	世界遺産に関する基本的知識を習得すると同時に、文章表現力や発信力、そして幅広い視野を身につける。				
スキルの育成方法	世界遺産に関するレポートの作成や討論・発表を通じて、文章表現力やプレゼンテーション力を養う。蛇足ながら、スキルなどというものは、一朝一夕に身につくものではないことを銘記されたい。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	
2	図書館ツアー	左記のテーマに関連し、それぞれ 30 分
3	世界遺産とは何か、図書館を利用して調べる	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
4	フランスの世界遺産	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
5	イタリアの世界遺産	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
6	ドイツの世界遺産	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
7	イギリスの世界遺産	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
8	スイスの世界遺産	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
9	レポートの書き方について	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
10	世界遺産について、レポートを書いてみる	左記のテーマに関連し、それぞれ２時間
11	私が選ぶ「ベスト・オブ・世界遺産」（発表、パート１）	左記のテーマに関連し、それぞれ２時間
12	私が選ぶ「ベスト・オブ・世界遺産」（発表、パート２）	左記のテーマに関連し、それぞれ２時間
13	世界遺産について、‘プレ合同発表会’	左記のテーマに関連し、それぞれ２時間
14	合同発表会	左記のテーマに関連し、事前３時間、事後 30 分
15	発表の振り返りとまとめ	左記のテーマに関連し、それぞれ１時間
16（試験）		

成績評価基準	欠席状況（２割）減点方式、レポート及び発表（８割）。		
前提科目	特になし	後継科目	特になし
教科書	教科書は使用せず。随時、プリントを配布する。		
参考書	適宜、教室で紹介する。		
注意事項	暗記は不要。		

【スタディー導入科目】

きそき育成するス	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○		○				○			○							○		○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○		
	他地域		○		

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	古山　隆	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	現在、日本においては太陽光発電や風力発電といった再生可能エネルギーの利用・普及を積極的に行っている。しかしながら、社会インフラや経済活動の形態から、石炭や石油などの化石エネルギーが大半を占めている状況にある。本演習では、石炭および石油について様々な角度から調査を行い、現代社会における化石燃料の利用の在り方について考察を行う。				
到達目標	ワードやエクセルを用いた文章作成スキルと口頭発表におけるプレゼンテーションスキルを身につける。				
スキルの育成方法	最初に２つの班に分かれ、石炭または石油をテーマとして選定する。次に、各班で書籍、雑誌、インターネット等を利用して石炭または石油に関する様々な情報を収集する。それらを整理して発表要旨を作成した後、パワーポイントにより調査結果の発表を行う。以上の作業により、発信力、数量的スキル、国際感覚、世界への関心、チームワークおよび主体性を養う。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	ガイダンス（演習の内容・進め方、メディアセンターツアー）	[事前]石炭・石油についての予習（1時間） [事後]石炭・石油についての課題（90分）
2	酒田共同火力発電所見学	[事前]火力発電についての予習（1時間） [事後]レポート作成（90分）
3	余目油田見学	[事前]油田についての予習（1時間） [事後]レポート作成（90分）
4	石炭・石油の埋蔵量、生産量、輸出量、消費量	[事前]石炭･石油の埋蔵量等についての予習(1時間) [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
5	石炭・石油の調査および採掘方法	[事前]石炭・石油の調査法についての予習（1時間） [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
6	石炭・石油の用途および製品	[事前]石炭・石油の用途についての予習（1時間） [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
7	石炭・石油の起源および歴史	[事前]石炭・石油の起源についての予習（1時間） [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
8	日本における石炭・石油の歴史	[事前]日本の石炭・石油についての予習（1時間） [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
9	石炭・石油と世界の紛争	[事前]世界の紛争についての予習（1時間） [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
10	資料整理	[事前]これまで調べた資料の整理（1時間） [事後]指摘された事項についての再調査（90分）
11	発表用要旨の作成	[事前]資料の電子ファイル化（1時間） [事後]指摘された事項の電子ファイル化（90分）
12	発表準備	[事前]発表用ｐｐｔファイルの作成（1時間） [事後]指摘された事項の修正（90分）
13	発表練習	[事前]発表原稿の作成（1時間） [事後]発表原稿の修正（90分）
14	発表会	[事前]発表練習（1時間） [事後]質問事項の再調査（90分）
15	振り返り	[事前]質問事項の資料化（1時間） [事後]日本のエネルギー事情の調査（90分）
16（試験）		

成績評価基準	演習への取り組み状況、発表資料および発表により総合的に評価を行う。		
前提科目	なし	後継科目	地下資源論 a、b
教科書	なし		
参考書	演習の過程で指示を行う。		
注意事項	履修者のスケジュールを考慮して酒田共同火力発電所および余目油田の見学を行う。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○				○	○	○			○				○			○		○	

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○		
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	神田　直弥	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	日没前後の時間帯は自動車と道路横断中の歩行者が衝突する事故が多い。これを防ぐためには反射材等の使用による歩行者の被視認性の向上とヘッドライト使用による自動車の視認性の向上が必要になる。今年度は日没前後における自動車のライト点灯行動を調査し、事故防止を推進するための方策について検討する。				
到達目標	・調査を実施し、結果を整理した上で、事故防止を推進するための提言をまとめたチラシが完成する ・資料の収集方法、レポートの作成方法がわかり、実践できる				
スキルの育成方法	学生個々人の主体的な取り組みが必要であるプロジェクト形式で授業を運営する。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	学修ワークシートの作成（30 分）
2	交通事故の発生状況	統計データの事前確認（30 分）
3	点灯率調査の計画策定と調査準備	記入用紙の作成（30 分）、調査練習（1 時間）
4	調査の実施	事前準備と片付け（各 1 時間）
5	調査結果のデータ化	授業中に終了しない場合は次回までに実施
6	調査結果の考察	グラフ作成の続きを実施（1 時間）
7	図書館ツアーと論文検索	
8	論文の発表（他地域との比較、10 年前との比較）	論文を読みレジュメを作成（4 時間）
9	論文の発表（ライトを点灯する理由）	論文を読みレジュメを作成（4 時間）
10	論文の発表（昼間点灯の効果と諸外国での実施状況）	論文を読みレジュメを作成（4 時間）
11	事故防止対策の検討と成果物（チラシ）の検討	効果的なチラシの検討（1 時間）
12	チラシの作成	チラシ作成の継続（2 時間）
13	チラシの完成と発表練習	発表資料作成（2 時間）
14	成果発表会	発表練習（1 時間）
15	振り返り	発表時の良かった点、改善点の整理（30 分）
16（試験）		

成績評価基準	欠席状況 20 点（1 回欠席あたり 5 点減点）、論文発表 20 点（レジュメの完成度、発表の分かりやすさ）、授業への参加状況 60 点（調査への参加、データ処理への貢献、チラシ作成への貢献）		
前提科目	なし	後継科目	基礎演習 b（神田）
教科書	なし		
参考書	なし		
注意事項	4 回目の授業の「調査」は日没前後の時間で行うため通常の授業時間とは別の時間に実施する。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○	○	○			○	○		○	○	○	○				○	○

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域		○	○	○

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a) ）	単位	2		
担当教員	広瀬　雄二	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	【コンピュータを公益で埋めつくそう】 市販のコンピュータ(以下計算機)は私企業の営利目的の成果物で埋めつくされている。 情報技術は一人でも多くの人と情報を共有したい願望から発達してきたにもかかわらず 多くの情報電子機器は自社製品の顧客の囲い込みや買い換え促進のために閉鎖的で、 汎用性も永続性もないソフトウェアやデータ形式を強要している。 この状況を打破する答のひとつを学ぶ。				
到達目標	公益の力によるソフトウェアだけで計算機環境を構築できることをまず自らが学び，それを普及させるためには何をしていけばよいか考えることを通じて 学習・研究成果の発表技術を高める。				
スキルの育成方法	実践的操作とプレゼンテーション				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	フリーソフトウェア・OSS とは	-
2	図書館ツアー(混雑度合により前後する場合がある)	配布資料復習(1h)
3	Linux のインストール	PC の機能確認(1h)
4	アプリケーション管理	前回作業の確認(1h)
5	Unix によるネットワーク設定	前回作業の確認(1h)
6	LAN 環境との融合	前回作業の確認(1h)
7	様々なアプリケーション	前回作業の確認(1h)
8	VMware と VirtualBox の概念と操作	前回作業の確認(1h)
9	個人調査課題の発表	配布資料作成(5h)
10	公益的アプリケーションの選定	PC の機能確認(1h)
11	発表原稿作成	前回作業の確認(1h)
12	中間発表(実際の日程は他クラスと調整)	前回作業の確認(1h)
13	発表の振り返り	前回作業の確認(1h)
14	電子的公益の未来	発表資料作成(4h)
15	総合成果発表	発表資料確認(4h)
16（試験）	全体の振り返り	-

成績評価基準	課題の出来具合と成果発表を同程度の比重で合算する。 4 回欠席相当以上で不可とする。		
前提科目		後継科目	
教科書			
参考書			
注意事項	Windows など既存の OS とその中にあるデータを 全て消して実験を行なうので，中味を全て消してよい ラップトップ型計算機(いわゆるノート PC)を必ず準備すること。 中古機で構わない。目安として「メモリ 2GB，HDD 80GB，USB2.0、有線 LAN 標準装備」を満たせばよい。 これから購入する場合は相談に応じるので yuuji@koeki-u.ac.jp に連絡のこと。 「ぱそこんの操作が好き・得意」 は，市販のソフトにおだてられているだけであって 本当の情報技術力を持つこととは次元が違う。 学部 1 年生から「プロの道具」に触れ，自己の情報技術力を高めよう。 情報特別選抜を考えている場合は 履修を推奨する。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］■ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、■ PBL、□ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、□ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域		○	○	○

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a) ）	単位	2		
担当教員	西村　まどか	科目ナンバー	SLA101	開講時期	S1 ｸｫｰﾀｰ
授業概要	第 2 クォーターでの活動を行うにあたって、資料を読みこみ分析しながら計画、準備をする。				
到達目標	計画にあたっての作業方法や、準備の際に必要な検討の手段を学ぶ。				
スキルの育成方法	必要に応じて自らの語学力や数的処理能力を補いながら活動に必要な資料を理解することにより、スキルが育成される。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	面談	[事後]課題の提出準備（1 時間）
2	図書館ツアー	[事後]課題の提出準備（1 時間）
3	資料の読みこみ	[事後]資料をまとめる作業（2 時間）
4	自らの理解をまとめる技術について	[事後]発表資料を作成する作業（2 時間）
5	資料についての発表準備	[事後]資料検討および内容のまとめ（2 時間）
6	発表に必要な技術の習得	[事後]技術の練習（2 時間）
7	資料についての質疑応答	[事前]資料をまとめる作業（1 時間）
8	発展させるべき内容の検討	[事後]資料をまとめる作業（2 時間）
9	新たな資料の読みこみに関する発表	[事前]発表資料作成作業（1 時間）
10	資料のつながりについて論点の検証	[事後]発表資料の修正作業（2 時間）
11	論点に沿った論理展開について	[事後]足りない資料を揃える（2 時間）
12	プレゼンテーションの方法	[事前]発表資料をまとめる作業（1 時間）
13	レポートとプレゼンテーションの表現方法のちがいについて	[事後]目的に沿い内容を分解する作業（1 時間）
14	合同発表会	[事前]発表練習（1 時間）
15		[事前]準備した資料をひととおり振り返る作業（1 時間）
16（試験）	振り返り	[事後]課題の提出準備（1 時間）

成績評価基準	出席 2 割、提出課題評価 2 割、受講態度 2 割、発表準備 2 割、発表に対する質疑応答 2 割の総合評価。		
前提科目	なし	後継科目	各系の基礎演習 b
教科書	面談後に決定。		
参考書	図書館ツアー後に決定。		
注意事項	ギャップイヤー対応の基礎演習 a として、発揮すべき機会とその締切が決まっていることをふまえ、積極的な態度で臨んでほしい。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○			○							○	○		○	○		○	○	○	○

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（□課題学習、■ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、□ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、□ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○			
	他地域				

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	山本　裕樹	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	誰しも一度は宇宙旅行をしてみたいと思ったことはあるだろう。もし宇宙旅行をするとしたら、宇宙のどんな場所を巡ってみたいだろうか。本演習では、宇宙のある天体へ宇宙旅行することを想定したガイドブックを制作することで、宇宙旅行における課題を発見し解決方法を考えるプロジェクト学習を行う。				
到達目標	・宇宙や天体についての知識を獲得する。 ・成果物（ガイドブック）の制作を通じて課題を発見し解決方法を考えるための能力を獲得する。				
スキルの育成方法	・PBL（Project-Based Learning）によって各スキルを養う。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	[事前]本年度の目標を立てる（30 分） [事後]ワークシートを確認する（30 分）
2	図書館ガイダンス	[事前]なし [事後]図書館で宇宙の本を借りて読む（4 時間）
3	プロジェクトの準備	[事前]読んだ本についてまとめる（1 時間） [事後]出し合った情報を整理（30 分）
4	目標設定	[事前]目標とする天体を考える（30 分） [事後]設定した目標を確認する（30 分）
5	計画立案と役割分担の決定	[事前]目標に向けた計画を考える（1 時間） [事後]自分の役割を確認する（30 分）
6	情報収集	[事前]天体についての情報の収集（2 時間） [事後]不足した情報の収集（2 時間）
7	情報整理	[事前]天体についての情報の整理（1 時間） [事後]出し合った情報の整理（1 時間）
8	ガイドブックの案を練る	[事前]ガイドブックには何が必要か考える（1 時間） [事後]ガイドブック案に必要な情報を整理（1 時間）
9	ガイドブックの制作	[事前]必要な情報の準備（1 時間） [事後]制作したガイドブックを見直す（1 時間）
10	ガイドブックの改良	[事前]ガイドブックの改良点を探す（1 時間） [事後]改良したガイドブックを見直す（1 時間）
11	発表の案を練る	[事前]発表の概要を考える（1 時間） [事後]発表に必要な情報の整理（1 時間）
12	発表資料を制作する	[事前]パワーポイントに慣れる（30 分） [事後]発表原稿を考える（1 時間）
13	発表の練習	[事前]発表原稿を読み込む（1 時間） [事後]発表資料と原稿を見直す（1 時間）
14	合同発表会	[事前]発表の練習をする（1 時間） [事後]他クラスの発表と比較する（1 時間）
15	振り返り	[事前]身についたスキルを確認する（30 分） [事後]レポートを作成する（2 時間）
16（試験）		

成績評価基準	出席と取り組み状況（30%）、成果物（20%）、発表（20%）、レポート（30%）で評価する。		
前提科目	なし	後継科目	なし
教科書	教科書は使わない。適宜プリントを配布する。		
参考書	講義中に指示する。		
注意事項	天体観測を行う予定。ガイドブックの制作と発表の準備は授業外の時間に行うことがある。		

【スタディー導入科目】

育成するスキル	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・発信力	読解力	数量的スキル	論理的思考力	自己表現力	情報リテラシー	国際感覚	語学力	人と社会への関心	世界への関心	地球への関心	創造力企画力	柔軟性	課題発見力	問題解決力	リーダーシップ	チームワーク	傾聴力	主体性	マネジメント力
	○	○		○					○				○	○						

［ 資　格 ］□ 教職（□中学、□高(公)、□高(地歴)）□ 社福士　□ 社福任用
［スタイル］□ 演習　■ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（■課題学習、□ PBL、■ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、■ ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、■ ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、□ ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ、■ 振り返り）

地域に関する学習	地域区分	学びの基本学習	地域の背景学習	地域課題の認識	地域課題の解決
	庄内	○	○		
	他地域		○		

科目名（英語）	基礎演習 a（Basic Seminar (a)）	単位	2		
担当教員	白旗 希実子	科目ナンバー	SLA101	開講時期	春学期
授業概要	論文の構成の基礎的な事項（問いの立て方、先行研究の探し方、調査の種類、まとめかた）について学ぶ。また、「学童保育」をテーマにした論文・著作・政府文書・雑誌を輪読することで、多角的な視点（教育・福祉・産業）から、地域課題・政策課題となっている「子育て支援」について考える。				
到達目標	論文の構成についての基礎的な事項（問いの立て方、先行文献の探し方、調査の種類、まとめかた）について理解している。テーマについて考える基本的な視点を身につけている。				
スキルの育成方法	輪読、グループ討論、議論のまとめ、発表資料の作成などの一連の作業を通して、コミュニケーション力、読解力、論理的思考力、課題発見力を高めるとともに、物事に対する柔軟性を身につけ、人と社会への関心を高める。				

授業計画

回	授業内容	事前・事後学修内容・所要時間
1	アドバイザー面談	大学で学びたい事柄の整理（事前・事後）・各 1h
2	問いの立て方	学習テーマを考える（事前）・深める（事後）・各 2h
3	先行研究の探し方　図書館ツアー	図書館 HP 確認(事前)・先行研究検索(事後)・各 2h
4	調査の種類（量的調査　質的調査　歴史資料分析）	課題資料を読む(事前)・調査方法の整理(事後)･各 3h
5	テーマについて考える（1）学童保育と子ども・子育て支援制度	制度を読む(事前)・制度を振りかえる(事後)・各 3h
6	テーマについて考える（2）学童保育の歴史と現状	著書を読む(事前)・著書を振りかえる(事後)・各 3h
7	テーマについて考える（3）学童保育の実践	著書を読む(事前)・著書を振りかえる(事後)・各 3h
8	テーマについて考える（4）民間学童①教育産業	資料を読む(事前)・資料を振りかえる(事後)・各 3h
9	テーマについて考える（5）民間学童②多様な担い手	論文を読む(事前)・論文を振りかえる(事後)・各 3h
10	テーマについて考える（6）酒田市の学童保育	酒田市の学童保育を考える(事前・事後)・各 3h
11	テーマについての議論	学んだことの整理(事前)･議論のまとめ(事後)･各 4h
12	学んだことの整理および今後の課題の明示化	発表にむけたグループ作業(事前･事後)･各 5h
13	発表資料の作成	発表にむけたグループ作業(事前･事後)･各 5h
14	合同発表会	発表練習（事前）・課題の整理（事後）・各 5h
15	振り返り	発表の感想・課題をまとめる（事前・事後）・各 2h
16（試験）		

成績評価基準	欠席者は減点。課題（ほぼ毎回）の提出及びその内容（60%）、演習内における意見交換、グループ作業等への貢献（40%）により評価する。		
前提科目		後継科目	生涯学習概論　教育学
教科書	適宜、レジュメを配布する。		
参考書	石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012 年（ISBN:9784534049278）、日本学童保育学会編『現代日本の学童保育』旬報社、2012 年（ISBN:4845112760）など。		
注意事項	実作業は演習時間以外で行なうことが多くなるので、金曜午後の演習実施時間はできる限り他の予定を入れないこと。		